

機器を使った「支援技術」

入力体験 原文

今日は、この新聞記事を見ながら話しますが、実はこの新聞記事は2008年の7月ですから、ちょうど3年前の今頃の新聞記事です。要は、2008年から数えて3年目の2011年に、ここにある完全デジタル元年になるというマスコミの記事なんですけれど、ここで何を予測していたかっていうと、アップル社の携帯のiPhoneがですね、かなりそういう、3年後には普及してくるだろうということを書いています。デジタルの放送番組を10回まで複写できるダビング10とかですね、それからさらに、2011年の7月には地上放送がすべてデジタル化されると。まさしく次世代のデジタルネットワークのインフラが整うということになっているわけですね。アナログ放送の電波の帯域ですね、これは、要はユビキタスの無線の帯域に使われます。無線ですから、ワイヤレスでいつでもどこでもデジタルのデータ通信が使えるようになる、ということなんです。より便利になる。さらに、こういうソフトバンクなどの新参入で、もう既にソフトバンク、かなり参入して儲かっていますけれど、日本のネット環境は世界一速く、安くなるというふうにはここでは予測していますね。

ところが課題もあって、ここに書いてあるけれど、実際の日本の競争力というのは、世界的にIT活用のランキングで、今、日本は2008年で14位だったんですね。14位。あ、さらに2008年の場合は、14位から19位へ落ちていったって言っていますね。デジタル活用をしているという意味では。そういう意味で、日本は、インフラはかなり発達しているけれど、そのインフラを使ってですね、土台を使って本当にそれを活用しているかという意味では、まだまだ世界のトップ10にも入っていないということが3年前に言われていました。果たして今、どうなのかというのがありますがけれど。依然として世界には追い付いてないので、追いつこうとして努力しているという状況ということですね。さらにですね、ここに書いてある、ITはどこまで優しくなれるか。要は、人間が使えるようになるかということなんですけれど。これも講義資料の一番後ろに2枚つけましたけれど、今2011年で、ここら辺ですね。2015年に、これ、25年間のこれからの未来というのを、新技術を予測していますけれど、例えば、ここにあるインターネットにおける逆探知。もう既に実現しつつありますよね。ネットで、特にツイッターで勝手にツイートしたりすると、誰がツイートしたんだっていうことで、逆探知でばれてしまいますよね。要は、日本はこういうインフラは非常に整っているけれど、要はそれの、まあリテラシーもある程度あるけれど、要は、モラルがまだ追いついてないっていうことですよ。そういう、人間がつくったこういう便利な道具というものを、使うのは人間です。その人間が、やっぱり社会的に常識を逸脱して使ってはならないっていうことですよ。そういう意味で、インターネットにおける逆探知とか、ネットワーク上のコンテンツをですね、合理的に金銭保障できる著作権の管理、要は勝手にコピーして、自分でお金を取って見せて、ビジネスするとかお金を儲けるとかいうふうな、そういうことをしないように。著作権に関しては、前回の講義で説明しましたよね。そういう、最初にその著作物をつくった人間が権利を有するわけですから、勝手に利用してはならない。それから、あと、匿名でも利用できる電子マネーっていうのは、SuicaとかPASMOとかで、ある程度もう実現されていますよね。

それから、もう少したって2020年ぐらいになると臨場感ある遠隔会議システム、要は外国に行かなくても、出張して長時間移動して集まらなくてもですね、フェイスツーフェイスでコミュニケーションがとれるっていうシステムができ上がります。会議システムですね。いくつか紹介しましたよね。2

020年になると、ここにあるように、皆さんはこのどちらになるのかな。人工知能がですね、人類に反乱を起こすかどうか。イエス、ノーってありますけれど、皆さんの場合は、どう思います？人工知能が人類に反乱を起こすか。反乱を起こすという、イエスと思う人、手を挙げてもらえますか？何人？1人、2人・・・。イエスという人、手を挙げてください。2人。じゃあ、ノーという人は、手を挙げてください。1人、2人、3人。ほかの人は？

2対3。ほかの人はどう思います？人工知能が人類に反乱を起こすか。はい。自分の意見はない？

どうでしょうね。一部、ネットで株の売買とか自動的にやっているところもあるので、その自動的にやっていることでですね、株価が下がって世界不況になるということも含めて、人工知能が人類に反乱を起こすっていうことで考えるんだったら、イエスなんでしょうね。ただ、映画でよくやっているように、人工知能が目覚めて、人間というのが地球上で環境を破壊する有害な生物だというふうにコンピュータが判断して、人間を全部、核爆弾で全滅させてしまおうというふうに考えるところまでいくと、ノーなんでしょうね。そこまではまだ行っていないという。でも、あと9年あるから、コンピュータの発展というのは加速度的なので、結果はまだわからないですけど。特にここにあるように、今ものすごくコンピュータの集積度っていうのは上がっているんで、個人レベルでも1ペタフロップス級の速いコンピュータというのをを使うようになるっていうのは事実でしょうね。皆さんに川崎工場で、スーパーコンピュータというのを見せましたけれど、大きなコンピュータですね、あれが、皆さんが持ち運ぶような装置の中にあのぐらいの装置が入るっていうのも、この時期になったら演算する能力が、そのぐらいあるはずですよ。